

# 子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 栃木 報告書



2016年12月17日（土）、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 栃木（以下、全国キャラバン in 栃木）が栃木県との共催で、とちぎ青少年センターにて開催されました。会場には、第一部に約70人、第二部に約30人、延べ約100名が集まりました。

午前中の第一部では、村井琢哉・副代表理事からの挨拶・趣旨説明に続いて、近藤真寿・栃木県保健福祉部長から、福田富一・栃木県知事からのメッセージとともにご挨拶をいただきました。その後、木村雅子・栃木県保健福祉部こども政策課副主幹、中野謙作・栃木県若年者支援機構代表理事、畠山由美・認定NPO法人だいじょうぶ理事長、仲村久代・認定NPO法人サバイバルネット・ライフ理事長の4人からそれぞれの取り組みと子どもの貧困に関してご報告をいただきました。

その後、栃木県内の高校生、専門学校生と、荻野友香里・栃木県若年者支援機構子ども食堂学習支援担当によるディスカッション『子どもの本音をのぞき見！しゃべり場』が開かれました。ディスカッションでは、学生たちが普段の生活を通して感じた困りごとや、学習支援や子ども食堂などに対する意見などを語り合いました。また、学生世代の子どもたちが、普段情報をどのように取り入れているかを話し合い、さまざまな支援の情報をどうやって子どもたちに伝えていくかについて考えました。学生からは「子ども食堂や学習支援というものをこれまで知らなかった。知っていたら行ってみたいかった。」「今の子どもたちはスマートフォンが当たり前の時代。想像以上にSNSを使



ってたくさんの情報を得ている。」「チラシはもらっても読まないことが多い。ティッシュなどが付いていないと受け取らない。」などの意見がでました。ディスカッションのコーディネータは、木戸寛捺・あすのば子どもサポーターが担当しました。

午後の第二部では、はじめに村尾政樹・あすのば事務局長より第一部の振り返りについてお話をいただき、その後、参加者でグループになって「ステークホルダーマップ」づくりを行いました。子どもと関わりのある人や子どもを取り巻く環境がどれくらい県内にあるのか整理をし、グループでは白熱した意見交換が行われました。意見交換タイムの最後には栗橋幸子・栃木県ひとり親家庭福祉連合会会長、土屋佳子・大田原市那須塩原市スクールソーシャルワーカー、太田健・公益財団法人キリン福祉財団常務理事事務局長の3名にリレートークをしていただき、「このキャラバンをきっかけにして、県内でさらに深くステークホルダーマップの整理や交流が行われることを期待したい。」などの意見がでました。第二部



では、参加した学生世代の子どもたちと大人との意見交換が活発に行われ、栃木県のさらなる子どもを支える地域づくりにつながる可能性を感じながら全国キャラバン in 栃木は閉会となりました。

参加者からは「色々な立場の方が率直に意見を出せて良かった。(40代・女性)」、「子どもの貧困がどれほど深刻化しているかがわかった。また、様々な活動を通して子どもの支援に取り組んでいることを知ることが出来た。(10代・女性)」、「実際の若者たちの声を聞くことができ、大変参考になりました。(40代・男性)」、「Facebookの有効性について認識した。つながりが大切ですね。(50代・女性)」、「県内の活動状況がわかり勉強になりました。自分に何ができるか考えます。(50代・男性)」

、「学校では分野別でしか学習しないが、このようなイベントであると複数分野が関わってくるのでより深い所をほりさげることができた。(10代・男性)」

、「漠然と分かったようなつもりでいたことを、これからどう考えていけば良いのか、たくさんのヒントをいただけました。ありがとうございました。(30代・男性)」

「子どもの現状、実際の支援を知ることができた。また、子どもたち、その親の支えになる場づくり、安心できる関係づくりが大切と思った。貧困でお金の問題は必ずでてくる。支援金をあげてその家庭が安定するとはかぎらないため、お金をためるための支援や情報を伝える必要もでてくるなと感じた。日本の助けを求めている子どもたちを救うために私も力になりたいと感じた。(20代・女性)」などの感想をいただきました。



#### 【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 栃木】

日 時：2016年12月17日(土) 第一部10時~12時 第二部13時~16時

場 所：とちぎ青少年センター／主 催：公益財団法人あすのば／共 催：栃木県

後 援：内閣府、宇都宮市

参加者：第一部 約70人 第二部 約30人 合計 延べ約100人が参加